

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		10,422	t-CO ₂
①を除外した温室効果ガス換算排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素 (③を除く。)		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素 (発電所等配分前)		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量 (①~⑩合計)		10,422

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量及び原単位排出量
------------------	--------------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
温室効果ガス総排出量	10,090	t-CO ₂	11,099	t-CO ₂	10,100	t-CO ₂	10,406	t-CO ₂	10,422	t-CO ₂
削減率 (対 基準年度)			▲ 10.0	%	▲ 0.1	%	▲ 3.1	%	▲ 3.3	%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率 (対 基準年度)						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
原単位あたりの排出量	0.05576	t-CO ₂ / m ²	0.06134	t-CO ₂ / m ²	0.05582	t-CO ₂ / m ²	0.0575	t-CO ₂ / m ²	0.0576	t-CO ₂ / m ²
削減率 (対 基準年度)			▲ 10.0	%	▲ 0.1	%	▲ 3.1	%	▲ 3.3	%
原単位あたりのみなし排出量						t-CO ₂ / m ²		t-CO ₂ / m ²		t-CO ₂ / m ²
削減率 (対 基準年度)						%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価 (目標の達成/非達成の理由)

<p>目標達成</p> <p>計画された温室効果ガス削減目標に対して、実際の排出量は予想を上回る削減を達成することができた。これにより、設定した目標を十分に達成。エネルギー効率化対策の効果が高かったことが、削減に寄与した。</p>

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> テナント空調温度（基準温度）の徹底設定可能範囲を設定する。 夏季：基準温度26℃（24～28℃） 冬季：基準温度24℃（22～26℃） 中間期：基準温度25℃（23～27℃） 	<ul style="list-style-type: none"> オフィステナントに基準設定温度変更及び設定範囲を通知する。 基準設定温度変更時に基準温度に変更する。 	<ul style="list-style-type: none"> オフィステナントに基準設定温度変更及び設定範囲を通知する。 基準設定温度変更時に基準温度に変更する。
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> 共用部の空調温度設定を厳守する。 冷房：26～28℃ 暖房：20～22℃ 中間期は、自然換気を有効利用。 	<ul style="list-style-type: none"> 設定温度変更をスケジュール管理して管理する。 空気環境測定基準内とし、運用の幅を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 設定温度変更をスケジュール管理して管理する。 空気環境測定基準内とし、運用の幅を広げる。
省エネルギー・省資源の行動の実践・照明	<ul style="list-style-type: none"> 照明点灯時間、グループの見直しスケジュールとポイントの見直しを実施し、点灯時間を削減する。 	<ul style="list-style-type: none"> 照明点灯エリアの確認及び見直しを継続し、削減ポイントを検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> 照明点灯エリアの確認及び見直しを継続し、削減ポイントを検証する。
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> ブラインド制御により日射による室内温度上昇を抑制する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規入居テナントに対し、ビル標準の制御であることを説明、承諾を得て継続する（更衣室などを除く）。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規入居テナントに対し、ビル標準の制御であることを説明、承諾を得て継続する（更衣室などを除く）。
省エネルギー・省資源の行動の実践・照明冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティ装置との連動制御により、照明、及び空調機を停止させるなど消し忘れ防止処置を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規入居テナントに対し、ビル標準の制御であることを説明、承諾を得て継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規入居テナントに対し、ビル標準の制御であることを説明、承諾を得て継続する。
省エネルギー・省資源の行動の実践・昇降機	<ul style="list-style-type: none"> エスカレーターの一部停止。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者に一定時間のみ運転することを通知する。 繁忙期以外は運転を停止する。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者に一定時間のみ運転することを通知する。 繁忙期以外は運転を停止する。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)
2015年度	太陽光発電	出力10kW
2015年度	風力発電	設置台数1台、出力5kW (2025年2月末撤去)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

- ・トルネード音装置を使用。ウォッシュレットを節電モードにて運用し、夏季は、便座ヒーターをOFF設定とする。
- ・井水、雨水及び中水処理設備を優先的に利用し、上水使用量を抑制する。
- ・屋上緑化、壁面緑化、外溝植栽の維持管理に努める。
- ・分別ボックスの設置、段ボール、廃油等のリサイクルをテナントに対して、推進する。
- ・ブライトイルミネーションの中止。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

- ・フィルター清掃日に指定する等により、空調の効率化に努める。
- ・共用部の空調設定温度を変更するなど、省エネ運転を実施する。
- ・事前にオフィス及び商業テナントに「環境保全の日」を周知し、同日の省エネルギー活動を啓蒙する。